

3. 教 育

1) 医学部医学科学生数など（平成22年5月1日現在）

(1) 学生数および各学年担当教学委員

学年	定員	人員	内 訳		学年担当教学委員	学 生 保 健 指 導 委 員 会
			男	女		
1	105	109	70	39	福山 隆夫 教授	委員長 福田 国彦 教授 副委員長 竹田 宏 講師
2	105	107	74	33	靱山 俊彦 教授	【委員】 銭谷 幹男 教授（総合健診・予防医学センター） 齋藤 義弘 講師（小児科）
3	100	107	83	24	近藤 一博 教授	吉田 正樹 講師（感染制御部） 小此木英男 助教（1年担当・内科）
4	100	95	74	21	小川 武希 教授	三枝 裕和 助教（"・放射線） 中村 敬 教授（"・精神）
5	100	101	82	19	尾上 尚志 准教授	川井 真 講師（2年担当・内科） 横田 邦信 准教授（3年担当・内科）
6	100	97	60	37	宇都宮一典 教授	原 弘道 助教（4年担当・内科） 上竹慎一郎 助教（5年担当・内科） 宇都宮保典 准教授（6年担当・内科）
計	610	616	443	173		中山 和彦 教授（2～6年担当・精神）

（国領校：109名 西新橋校：507名）

(2) 教学委員長 学生部長 大学事務部長

・教学委員長	松藤 千弥 教授
・副教学委員長	福田 国彦 教授
〃	岡野 孝 教授
・学生部長	中川 秀己 教授
・副学生部長	羽野 寛 教授
〃	福山 隆夫 教授
・大学事務部長	高橋実貴雄

2) 医学部看護学科学生数など（平成22年5月1日現在）

(1) 学生数および学年担当委員など

学年	定員	人員	内 訳		学 年 担 当 委 員 等
			男	女	
1	40	43	2	41	委 員 伊藤 文之 教授（保健指導担当）
2	40	40	1	39	〃 北 素子 教授（1年担当）
3	40	41	1	40	〃 長 佳代 准教授（2年担当）
4	40	43	1	42	〃 渡邊 知映 講師（3年担当）
計	160	167	5	162	〃 嶋澤 順子 准教授（4年担当）

(2) 教学委員長・学生部長・学事課長

・教学委員長	櫻井美代子 教授
・学生部長	濱中 喜代 教授
・学事課係長	深澤 博臣

3) 大学院学生数（医学系専攻博士課程）（平成22年5月1日現在）

学年	定員	人員	内 訳		大 学 院 委 員 会			
			男	女	委 員 長：栗原 敏 学長			
1	66	35	26	9	委 員：渡邊 直熙 教授 阿部 俊昭 教授			
2	66	20	17	3	松藤 千弥 教授 細谷 龍男 教授			
3	66	27	17	10	近藤 一博 教授 中川 秀己 教授			
4	66	20	15	5	矢永 勝彦 教授			
計	264	102	75	27	オブザーバ：高木 敬三 専務理事 山田 尚 教授			

4) 大学院学生数（看護学専攻修士課程）（平成22年5月1日現在）

学年	定員	人員	内 訳		大 学 院 委 員 会（修 士 課 程）			
			男	女	委 員 長：菊地登喜子 専攻長			
1	10	12	1	11	委 員：柿川 房子 教授 櫻井 尚子 教授			
2	10	12	0	12	藤村 龍子 教授 茅島 江子 教授			
計	20	24	1	23				

5) 大学および大学院など

(1) 医 学 科

I. 教学関係

1. 教学委員会

平成22年度医学科教学委員会は国領校選出委員2名および西新橋校選出委員15名の計17名で運営された。委員会は毎月2回定例で開催された。平成22年度の各教学委員の役割分担は以下の通りである。

医学科教学委員会：松藤千弥（教学委員長）、福田国彦（副教学委員長、学生保健指導委員長）、岡野孝（副教学委員長）、中川秀己（学生部長、学生担当委員長）、羽野寛（副学生部長、学生担当副委員長）、福山隆夫（副学生部長、学生担当副委員長、1学年担当）、柳澤裕之（カリキュラム委員長）、福島統（カリキュラム自己点検・評価委員長）、木村直史（試験委員長）、中山和彦（学生相談室委員長）、川村哲也（臨床実習教育委員長）、靱山俊彦（2学年担当）、近藤一博（教育施設委員長、3学年担当）、小川武希（4学年担当）、尾上尚志（5学年担当）、宇都宮一典（6学年担当）、伊坪真理子

2. 平成22年度医学科の進級、卒業者

1年：進級	106人	留年	1人	休学	1人	退学	1人
2年： "	100人	"	3人	休学	2人	退学	2人
3年： "	104人	"	3人				
4年： "	90人	"	4人	退学	1人		
5年： "	101人	"	0人				
6年：卒業	97人	"	0人				

以上の結果、平成23年度の学生数は1年-113人、2年-111人、3年-103人、4年-108人、5年-90人、6年-101人、合計626人

3. カリキュラムの改訂と経過

3年次の「研究室配属」を3週間から6週間に延長した。4年次でコース「臨床医学Ⅰ」、「社会医学Ⅱ」、「外国語Ⅳ」が1コマ90分間から70分間に短縮され、従来180分間であった実習・演習時間は175分間となった。3年次のコース「社会医学Ⅰ」から「法医学」を除くユニットを4年次のコース「社会医学Ⅱ」に移すこととなった。なお経過措置のため当ユニットを平成22年度は開講せず、平成23年度に開講される。4年次のコース「医学総論Ⅳ」に、ユニット「医学総論Ⅳ演習－医療安全－」を新設した

4. 教学委員と学生会委員との懇談会

例年同様に平成22年7月12日（月）、平成22年12月13日（月）に開催された。学生会からの主な報告は前年度活動報告、会計報告、平成22年度予算案、京都市立医科大学定期戦成績（3勝16敗）、第53回東日本医科学学生総合体育大会成績、慈恵祭の準備・報告、学生のアンケート調査結果等であった。また、設備の改善および講義配布資料の改善に関する要望があった。

5. 第51回～第56回 Faculty Development

平成21年4月以降の開催および修了証を授与された参加者数は以下の通りである。

第51回 Faculty Development

日 時：平成22年5月16日（日）

場 所：西新橋校

テーマ：在宅ケア実習指導者FDワークショップ

修了証受領者（12名、実行委員2名）

第52回 Faculty Development

日 時：平成22年7月3日（土）

場 所：西新橋校

テーマ：試験問題作成

修了証受領者（38名、実行委員7名）

第53回 Faculty Development

日 時：平成22年10月24日（日）

場 所：西新橋校

テーマ：家庭医実習指導医FDワークショップ

修了証受領者（5名、実行委員2名）

第54回 Faculty Development

日 時：平成22年10月30日（土）

場 所：西新橋校

テーマ：クリニカル・クラークシップ指導医養成

修了証受領者（33名、実行委員10名）

第55回 Faculty Development

日 時：平成22年11月13日（土）

場 所：国領校

テーマ：初年次教育に関するワークショップ

修了証受領者（23名、実行委員11名）

第56回 Faculty Development

日 時：平成22年12月11日（土）

場 所：西新橋校

テーマ：OSCE評価者トレーニング

修了証受領者（44名、実行委員16名）

6. 第49回～第51回医学教育セミナー

以下のとおり開催された。

第49回医学教育セミナー

日 時：平成22年6月9日（水）

場 所：西新橋校

講 演：医師国家試験の変遷

三苦博教授（東京医科大学、医学教育学）

第50回医学教育セミナー

日 時：平成22年10月22日（金）

場 所：西新橋校

講演：臨床実習、臨床研修、専門医研修（ジェネラリスト養成を含む）における大学附属病院の教育機能
平出敦教授（近畿大学、救急診療部）

第51回医学教育セミナー

日時：平成22年11月15日（月）

場所：西新橋校

講演：セント・ジョージ医科大学の医学教育-ITを駆使しての医学教育-

Peter McCrorie教授（英国、セント・ジョージ医科大学、医学教育学）

7. 第35回カリキュラム特別検討会

以下のとおり開催された。

第35回カリキュラム特別検討会

日時：平成23年2月16日（水）

場所：西新橋校

テーマ：4年次70分間講義—1年目の検証と今後に向けて—

8. その他の報告事項

1) 新入生オリエンテーション

平成22年4月9日（金）、10日（土）の両日、新1年生を対象にオリエンテーションが行われた。初日は、学長より建学の精神と医学生としての心構えについての講話、小論文作成、学生生活アドバイザーとのグループ討論ならびに懇談会等があり、2日目はカリキュラム、健康管理の説明、学生生活等についての諸注意が行われた。

2) 首都大学東京から学生の受入れ

首都大学東京との教育・研究交流協定書に基づき特別科目等履修生を受入れた。

平成22年度は国領校で前期3名、後期4名（実質4名）、西新橋校2名、合計6名の学生の単位を認定した。

3) 学祖の墓参および学長、教学委員と学生の懇親会

学長、教学委員、学生代表が平成22年10月9日（土）に青山墓地に眠る学祖高木兼寛先生の墓参をした。また学祖を偲んで千代田区一ツ橋の如水會館で懇親会を開催した。

4) 学生生活アドバイザー

担当教員はそれぞれ4～5名の学生を受持っている。1年生は国領校教員および第三病院勤務教員、2年生は西新橋校基礎講座教員が担当している。また、総括と意見交換のためにアドバイザーが集まって懇談会を開催した。

5) 共用試験システム

「臨床実習開始前の学生評価のための共用試験システム」が例年どおり運用された。OSCEは平成23年1月16日（土）に西新橋校大学1号館8階演習室および7階実習室で、CBTは平成23年2月5日（金）に西新橋校4階講堂で実施された。受験者数93名、欠席者なしであった。またCBTの再試験は該当者なしであった。

6) 4大学学生教育交流会

本学と昭和大学、東邦大学、東京医科大学の4校が持ち回りで年2回の開催が続けられている。カリキュラム全般および臨床実習、卒業試験、医師国家試験、共用試験等に関する話題を中心に継続的な交流が図られている。平成22年度は4校の協力で展開している戦略的大学連携支援事業の最終年度であり当初の目的が予定通り達成された。平成22年度の開催日および当番校は以下の通りであった。

第24回 平成22年5月21日（金）昭和大学

第25回 平成22年11月12日（金）東京慈恵会医科大学

7) オープンキャンパス

例年8月に行っている医学科大学説明会は、昨年度よりオープンキャンパスに名称を改め、3回ともオープンキャンパスとして広報し、いずれも午後1時30分から開催した。終了後、

大学1号館教育施設の見学と個別相談会を実施した。

- 1回目：平成22年8月28日（土）中央講堂 参加者：約800名
2回目：平成22年9月25日（土）中央講堂 参加者：約340名
3回目：平成22年10月23日（土）1号館講堂 参加者：約180名

8) 教育施設

平成25年度からの看護学科入学定員増員計画に基づき、国領キャンパス施設改修委員会を立ち上げて検討を開始した。看護学科教育環境のスペース確保については、改築ではなく増築工事で継続して検討することとなった。国領校については、トイレ等一部の改修を行うこととした。

II. 入学試験

1. 入学試験は、平成23年2月6日（日）に五反田TOCビルで一次試験を、2月19日（土）・20日（日）に本学西新橋校舎で二次試験を実施し、2月23日（水）午後3時に合格発表を行った。今年度より東京都地域枠5名を設け、入学定員が105名から110名となった。志願者数は2,574名、入学者数は111名である。入学者の内訳は下記の通りである。

① 男子 72名、女子 39名

② 現役 45名、1浪 42名、2浪 14名、その他 10名

③ 地域別入学者数

北海道	0名	東北地方	1名
東京および関東地方	90名	甲信越・北陸地方	1名
東海・近畿地方	9名	山陽地方	1名
四国地方	2名	九州地方	5名
その他（在外教育施設等）	2名		

III. 国家試験

1. 医師国家試験

第105回医師国家試験は平成23年2月12日（土）～14日（月）の3日間に渡り実施され、結果が3月18日（金）に発表された。

本学からの受験者数は106人であり、合格者103人、合格率97.2%であった。全国平均合格率は89.3%であり、本学の合格率は全国3位、私立2位であった。新卒者については97人中合格者97人、合格率100%（全国平均92.6%）、既卒者については受験者9人中6人が合格し合格率66.7%（全国平均60.2%）であった。

IV. 退任記念講義

平成23年1月31日（月）午後3時30分から大学1号館講堂において開催された。

渡邊 直熙 教授（熱帯医学講座）

演 題：「新たな概念を求めてIgEとともに」

基礎医学の分野で活躍された渡邊教授の含蓄ある講義に学生及び教職員一同が大変感銘を受けた。次いで松藤千弥教学委員長から同じく定年退任される4名の伊藤文之教授（小児科学）、山田昭夫教授（内科学：リウマチ・膠原病内科）、法橋 建教授（総合診療部）、星 順隆教授（輸血部）の略歴が紹介され、栗原敏学長より挨拶があり記念品が贈呈された。また、学生会より記念品並びに花束贈呈があり、同窓会、父兄会より記念品の贈呈があった。

退任記念講義終了後、退任される5教授を囲んで退任記念パーティーが「東京プリンスホテル サンプラワーホール」にて開催された。会場には、教職員、同窓、学生が参集し、盛大なうちに会は終了した。

国領校では、平成23年1月15日（土）午後2時から国領校本館講堂において藤村龍子教授（看護学科長）、佐藤幸一教授（物理学研究室）の最終講義を実施した。終了後、ベラ食堂にて記念パーティーが開催された。

(2) 看護学科

I. 教学関係

1. 教学委員会

看護学科教学委員会は看護学科教学委員長1名、看護学科教学委員4名をもって構成され、教学委員会は定例として毎月1回開催されている。

教学委員は以下の通りである。

平成22年4月～平成23年3月

教学委員長 櫻井美代子

教学委員 芳賀佐和子、高島 尚美

濱中 喜代、嶋澤 順子

2. 教学関連の主な事項

- ① 平成22年度は、1年生（19期生）43名、2年生（18期生）40名、3年生（17期生）41名、4年生（16期生）43名で新学期をむかえた。
- ② 平成22年度オリエンテーションは、4月9日から16日にかけて実施した。カリキュラムや学生生活上の注意などの説明、健康診断や防災、防犯についての講習会、カルト教団への注意を喚起する講演も平行して行なわれた。
- ③ 平成22年4月24日、全学生に向けた川嶋みどり氏（日本赤十字看護大学教授）による講演会（テーマ「未来の看護チャレンジャーとしてあなたへー看護師60年からのメッセージ」）を行なった。
- ④ 次の期間に定期試験を実施した。
 - ・前期 平成22年6月26日
平成22年8月27日～9月18日
 - ・後期 平成23年2月1日～2月5日
- ⑤ 平成22年7月24日、18期生の「看護への思いを新たにする式」の一環として、廣井嘉代子氏（東京慈恵会医科大学附属病院看護部・・・本学2期生）による講演会が実施され、9月4日に本学関係者、ご父母をお招きし、式典を行った。また、同日保護者会も開催し、有意義な意見交換ができた。
- ⑥ 平成22年10月23日、浅倉美津子氏（薬害肝炎東京原告団）による講演会を開催した。
- ⑦ 平成22年10月9日には学祖高木兼寛先生の墓参があり、学生代表が参加した。
- ⑧ 平成22年10月28日には解剖諸霊位供養法会が行なわれ、4年生が参加した。
- ⑨ 平成22年11月27日、4年生の看護研究発表会が行なわれた。
- ⑩ 平成23年3月11日には医学科と合同の卒業式が西新橋で行なわれ、16期生42名が卒業し、慈大賞と同窓会賞がそれぞれ1名に贈られた。

II. 入学試験

1. 平成23年度入学試験は、平成23年2月10日に一次試験を、2月13日に二次試験を実施した。志願者数は、315名、入学者は42名、その内訳は次のとおりである。

- ① 女子 40名、男子 2名
- ② 現役 34名、1浪 5名、その他 3名
- ③ 地域別入学者数

北海道地方	1名	東北地方	1名
東京および関東地方	38名	信越地方	2名
東海地方	0名	近畿地方	0名
中国・四国地方	0名	九州・沖縄地方	0名

2. 平成22年度オープンキャンパスは、平成22年7月17日と8月3日・4日の3日間実施し、参加者数は529名であった。内訳は、7月が240名、8月が151、138名であった。

3. 受験生の確保を目的に、学外で開催された3箇所の大学ガイダンス等に分担して教員・学事課

職員が参加した。

4. 高等学校 8 校へ訪問し、本学のピーアールや看護について進路指導の先生方へ説明し、看護について理解を深めてもらった。また、模擬授業も 3 校で実施した。

Ⅲ. 国家試験

1. 看護師・保健師国家試験

第100回看護師国家試験は、平成23年 2 月20日（日）に、第97回保健師国家試験は平成23年 2 月18日（金）に実施され、その結果が 3 月25日（金）に発表された。

看護師、保健師国家試験ともに16期生42名が受験し、看護師は41名（97.6%）、保健師は37名（88.1%）が合格した。

なお、全国の看護師国家試験合格率は91.8%、保健師国家試験合格率は86.3%であった。

Ⅳ. 学生生活アドバイザー

平成21年度より、学生生活を稔り豊かなものとするため、学習上や生活上の悩みを気軽に相談できる学生生活アドバイザー制度を導入した。1、2 年生を対象とし、比較的若手の教員が 4～5 名の学生を担当し、前期・後期それぞれ 1 回の交流活動の他、適宜自由に活動を行なった。学生アンケートの結果は好評であった。

(3) 大学院

1. 医学研究科博士課程

平成19年度より大学院改革を実施し、以後大学院の改善充実化を図るため種々検討を重ね、実施している。平成22年度は以下について検討を行った。

1) 研究助成制度の見直し

経常費補助金特別補助の大幅な見直しにより、大学院生に対する大学院研究助成金と大学院教員に対する医学研究科研究推進費の助成制度が廃止された。本学では研究の充実化と活性化を堅持するため以下のとおりとし、平成23年度より実施することとした。

- ① 大学院研究助成金を見直し、助成額を50万円から30万円とした。

平成23年度採択件数：12件

- ② 医学研究科研究推進費を次のとおりとした。

- ・研究助成期間の見直し「3年間」を「2年間」とする。
- ・1件あたりの年間助成額の見直し「上限500万円」を「上限300万円」とする。

平成23年度採択件数：新規 2 件、継続 5 件

2) 海外派遣助成金の増額

同窓会のご厚意により、同窓会基金による海外派遣助成の総額を100万円から200万円に増額していただいた。従来対象は、大学院生のみであったが、平成22年度から大学院生ならびに若手研究者（講師以上を除く）とした。

3) 星薬科大学との学術交流の締結

本学と星薬科大学は、それぞれ専門とする分野の特色を生かして、包括的に教育および研究分野で以下の点について連携していくこととした。

- ① 教育・研究面での相互協力推進と、その具体策の策定
- ② 相互理解を深めるためのシンポジウム等の学術交流事業の実施
- ③ その他、両大学が必要と認める事項等の検討

4) 大学院教員へ Faculty Development の実施

大学院委員会と倫理委員会共催でFD「臨床研究に関する講習会」を実施した。

日時：平成22年 6 月22日（火）18：00～ 講師：薄井紀子

5) カリキュラムの内容の検証

社会人大学院生のニーズにより、共通カリキュラムに e-learning システムを利用した「疫学・臨床研究」の科目を導入した。当授業は、平成23年度から実施することとした。

6) その他

・社会人大学院生の勤務状況を配慮して、平成23年度より入学式を4月第1週目の土曜日に設定した。

平成23年度の大学院入試は2回実施し、1回目は平成22年10月16日に、2回目は平成23年1月22日に実施した。その結果、33名（うち社会人6名）が合格した。本学の大学院生は本学の各講座、総合医科学研究センターのみならず、国外ではカリフォルニア大学、ボストン大学、スタンフォード大学、ベイラー医科大学など、国内では東京大学、大阪大学、防衛大学校、慶應大学および放射線医学総合研究所、国立成育医療センター、国立感染症研究所など国内外の様々な大学、研究所でも広く研究を行っている。

2. 看護学専攻修士課程

平成22年度に本課程は完成年度を迎え、より課程の安定的な運営に努めるべく研究科委員会、大学院委員会、教学委員会、FD委員会、大学自己点検・評価委員会、入学試験委員会の有機的連携と運営を図った。

- 1) 教育研究活動においては、教員への教育研究支援としての「研究指導費」の運営面での充実を図り、学生に対しては、博士課程と同様な「研究助成制度」の機能的運用で、学生にとっては、研究指導費の院生使用分と研究助成制度により、活動の範囲や内容を高めることを図った。研究助成制度による研究助成採択者は11名。
- 2) 開設当初より、目標であった専門看護師教育課程（認定機関：一般社団法人日本看護系大学協議会所管）へ平成22年7月29日に申請を行い、本課程の成人看護学（急性・重症患者看護学）分野でクリティカルケア看護分野、がん看護学分野でがん看護分野において、それぞれ専門看護師教育課程の認定を23年2月16日付けにて受けた。
- 3) 入学試験は、募集を平成22年8月10日（火）～9月10日（金）間に行い、出願資格認定試験を平成22年9月18日（土）、一般入学試験を平成22年9月26日（日）に実施した。その結果、10名の応募があり、10名が合格した。
- 4) 平成21年4月に入学した院生の1期生の修了式を平成23年3月11日に挙行了た。
修了者：11名
- 5) 文部科学省へ大学等の設置に係る設置計画履行状況報告の開設後2年間について、平成21年5月13日（木）に提出し、平成23年2月4日付けにて、「特段の留意事項は付さない」との通知を受けた。

6) 慈恵看護専門学校の状況

看護専門学校学生数（平成22年5月1日現在）

	学生総定員数	1学年定員数	1年生	2年生	3年生	計
	人	人	人	人	人	人
慈恵看護専門学校	300	100	98	98	108	304
慈恵第三看護専門学校	150	50	52	58	51	161
慈恵柏看護専門学校	240	80	80	91	61	232
計	690	230	230	247	220	697

(1) 慈恵看護専門学校

I. 教学関係（校長：川村将弘、副校長：蝦名總子、事務長：岡村秀樹）

1. 運営委員会

- ① 慈恵看護専門学校運営委員会は校長、副校長、教務主任、事務長、慈恵会局長の5名をもって構成され、定例として毎月1回開催されている。
- ② カリキュラム運営委員会は副校長、教務主任、とカリキュラム委員5人で構成され週1回開催されている。

2. 教学関連の主な事項

- ① 平成22年度1年生（61期生）98名（新入生 95名＋復学者3名）、2年生（60期生）98名、3年生（59期生）108名、で新学期をむかえた。
- ② 平成22年度オリエンテーションは4月6日から4月26日にかけて、学校生活を円滑に送ることができるようガイダンスが行われた。この間に上級生と交流する機会も持った。オリエンテーションの一環として1年生を対象に防災訓練を実施した。
- ③ カリキュラム改訂
平成21年度入学生より新カリキュラム（97単位）を導入。22年度は1、2年生は新カリキュラム、3年生は旧カリキュラムを運営した。新たに開講した科目は次年度に向け、教授内容の評価修正を行なった。また次年度開講科目の準備を行なった。成人看護学3実習において3年生全員に夜間実習を経験させた。夜間の看護師の仕事の実際や患者の様子を知り看護者としての役割を広く学べた。学生の学びをまとめ看護学教育学会や日本看護協会看護教育学会に報告した。
旧カリキュラム未履修科目を持つ者が単位を新カリキュラムの教授内容で履修できるよう単位互換の整理、および対象学生へのガイダンスを行った。
- ④ 次の期間に定期試験を実施した。
 - ・前期 平成22年9月16日～9月25日
 - ・後期 平成22年12月13日～12月16日
平成23年2月12日～2月19日
- ⑤ 平成22年10月6日には東京都看護協会主催の看護学生看護研究学会（普門館）に2、3年生が参加。本学の学生3名が発表した。
- ⑥ 平成22年10月25日、26日、3年生の学外セミナーを実施。「ケアの本質」について話し合い看護についての学びを深めた。
- ⑦ 平成22年10月29日看護研究発表会、平成23年3月7日看護観発表会を3年生が行った。
- ⑧ 平成23年3月10日に卒業式が行なわれ、82名が卒業し、優等賞と同窓会恵和会賞がそれぞれ1名に贈られた。
- ⑨ 平成23年3月11日震災発生日は2年生が臨床実習中であった。全学生の負傷者はなかった。当日帰宅困難な学生約100名が校舎内に宿泊した。3月のカリキュラム予定を見直し学生が最小限の出校になるよう配慮した。

II. 入学試験

1. 平成23年度入学試験は次のとおり実施した。

推薦・大学卒選考〔一次〕平成22年10月27日（水）〔二次〕平成22年11月13日（土）

一般選考〔一次〕平成23年1月19日（水）〔二次〕平成23年1月22日（土）

志願者数は440名（推薦84名・大学卒111名・一般245名）昨年度より推薦選考志望者が30名増加した。入学者は104名（推薦69名・大学卒10名・一般25名）であった。

2. 平成21年度オープンキャンパスは、平成22年7月17日（土）・8月28日（土）・11月27日（土）の3日間実施し、参加者数は555名（内訳は7月202名、8月258名、11月95名）であった。

3. 予備校主催入試ガイダンス等は、7月に6箇所、12月に2箇所、分担して教員・事務員が参加した。

III. 国家試験

第99回看護師国家試験は、平成23年2月22日（日）に実施され、その結果が3月25日（金）に発

表された。59期生82名が受験し、82名全員が合格した。

(2) 慈恵第三看護専門学校（校長：横山淳一、副校長：平岡宮子、事務長：佐藤 博）

I. 教学関係

1. 会 議

下記の会議を置き学校運営にあたっている。

運営会議は学校長、副校長、参与、教務主任、実習調整者、学年主責任者、事務長で構成され、毎月約1回のペースで開催されている。その他の会議・委員会は、教員会議、教職員会議、認定会議、入学試験判定会議、カリキュラム会議、講師会議、臨床実習指導者会議等である。

2. 教学関連の主な事項

- ① 4月5日（月）3校合同入学式が西新橋で行われ、当日、保護者会を開催した。平成22年度1年生（21期生）58名、2年生（20期生）52名、3年生（19期生）60名計170名で新学期をむかえた。
- ② 5月15日3校交流会を第三校で開催した。
- ③ 6月10日～12日、2泊3日の日程で平山キャンプ場にて教育キャンプを実施した。
- ④ 5月29日、細谷亮太氏による「子どもの命と向き合って」のテーマで恵和会特別講演を3校学生対象に開催した。
- ⑤ 7月17日、3年生保護者会を開催し看護師国家試験の現状と対策を理解していただき、学生が実習や学習に集中できるように協力してもらうための機会とした。
- ⑥ 7月24日、9月25日、11月7日（学校祭同時開催）の3回、学校説明会を開催した。参加総数は、受験生および保護者を含め292名であった。
- ⑦ 10月12日講師会を開催し、今年度は参加者を看護部長及び各師長とし、23年度の統合実習の実施に向けて臨床と意見交換をする機会とした。
- ⑧ 11月26日、理事長同席のもと1年生57名の戴帽式を実施した。
- ⑨ 12月11日、第4回 Home Coming Dayを6階大教室で開催し、卒業生教職員合わせて66名の参加があった。
- ⑩ 平成23年3月10日2校合同の卒業式が西新橋で行われた。19期生56名が卒業し、優等賞と同窓会より恵和会賞が授与された。

II. 入学試験

平成22年度入学試験は、推薦入試を平成21年11月19日（木）・11月28日（土）、一般入試を平成22年1月17日（日）・1月19日（火）に実施した。

志願者数は推薦29名、一般188名、入学者は57名であった。

III. 国家試験

第100回看護師国家試験は、平成23年2月20日（日）に実施され19期生56名が受験し、54名（96.4%）が合格した。なお、全国の看護師国家試験合格率は91.8%であった。

(3) 慈恵柏看護専門学校（校長：佐々木敬、副校長：山下紳子、事務長：宮崎栄一）

I. 教学関係

1. 学校運営に関する会議

- 1) 学校運営会議は、毎月1回開催されている。
- 2) 教職員会議は、毎月1回開催されている。
- 3) 教員会議は、毎月2回開催されている。

2. 教学関連の主な事項

- 1) 平成22年4月5日（月）、3校合同入学式を挙行了した（24期生：入学者79名）。
- 2) 平成22年度は1年生（24期生）80名、2年生（23期生）91名、3年生（22期生）61名の計232名で新学期を迎えた。
- 3) 4月6日（火）、平成22年度始めにあたり、全学生を対象に始業対面式を実施した。

教職員紹介、学年のクラス編成の説明及び校長より教育方針の表明を行ない、3年間の学習計画導入として行なっている。

- 4) 4月2日(金)に、講師会を実施した。本校の教育計画の周知と日頃の教育に関する意見交換の場として活用している。
- 5) 5月15日(土)に、第三看護専門学校講堂において3校合同交流会を行なった。今回は征矢光生講師(新宿セミナー国家試験対策本部 部長)を招き講演を行なった。演題は「人を教えること、育てること」であった。
- 6) 5月29日(土)に看護専門学校3校の学生を対象に恵和会の特別講演が行われた。講師は聖路加国際病院副院長 細谷亮太先生(演題:子どもの命と向きあって)であった。
- 7) 人間関係の基礎倫理を学び体験を通して深められるように1年次の7月と3年次の5月に「人間関係論1・2」として2泊3日の宿泊研修を実施している。
- 8) 安全教育の一環として大学主催の「チーム医療構築ワークショップ」へ3年生が年2回10名ずつ参加した。また、「医療安全と看護技術」の科目の中で医療安全について16時間の講義演習を実施した。
- 9) 平成22年10月31日(土)、学習支援対策の共同を目的として、3年生の保護者を対象とした保護者会を開催した。
- 10) 平成22年11月22日(月)、1年生(24期生)の戴帽式を挙行了(戴帽生79名)
- 11) 平成23年1月20日(木)、関東信越厚生局による指導調査を受けた。
- 12) 平成23年3月10日(木)、3校合同の卒業式を挙行了。22期生57名が卒業し、優等賞、恵和会賞がそれぞれ各校1名に贈られた。また、千葉県より、千葉県知事賞が本校卒業生1名に贈られた。

II. 入学試験

1. 平成23年度推薦入学試験は、1次試験を平成22年10月27日(水)、2次試験を11月6日(土)に実施した。志願者数57名、合格者43名であった。
2. 平成23年度一般入学試験は、1次試験を平成23年1月29日(土)、2次試験を2月1日(火)に実施した。志願者数207名、合格者49名であった。
3. 推薦入試・一般入試を実施した結果、23年度の入学者は77名であり、その内訳は次の通りである。
 - (1) 現役 65名、既卒者 12名(内 大卒 2名、短大卒 1名、高卒 9名)
4. 平成22年度学校説明会は、平成22年5月・7月・8月の3日間実施し、参加者数は316名であった。
5. 学生確保を目的とし、推薦入学した在学生の出身高等学校39校(千葉県24校、茨城県6校、埼玉県7校、東京都2校)に対して学校訪問を行った。
6. 予備校等で開催された学校相談会に出席し約140名の相談を受け付けた。また、6月～11月の土曜日に臨時の学校見学を受け入れ、約50名の参加を得た。

III. 看護師国家試験

1. 第100回看護師国家試験は平成23年2月20日(日)に実施され、結果が3月25日(金)に発表された。22期生57名が受験し、55名が合格した(合格率96.4%)
なお、全国の看護師国家試験合格率は91.8%であった。

IV. 学生関係行事

- 1) 4月13日(火) 1、2年生健康診断実施
- 2) 4月20日(火) 3年生健康診断実施
- 3) 7月27日(火) 体育祭を実施
- 4) 10月22日(土) 秋芳祭を実施
- 5) 12月22日(火) キャンドルサービスを実施

7) 卒後臨床研修

1. 初期臨床研修

- 1) 平成22年度初期臨床研修医は、医科85名（本学卒56名、他学卒29名）、歯科3名、計88名が平成22年4月1日より研修を開始した。附属4病院別の採用数は下記の通りである。

本院 40名（定員47名）内訳：本学卒15名、他学卒25名
（歯科医師3名を含めた合計は43名である。）

青戸病院 4名（定員8名）内訳：本学卒4名

第三病院 20名（定員21名）内訳：本学卒18名、他学卒2名

柏病院 21名（定員24名）内訳：本学卒19名、他学卒2名

- 2) 平成23年度初期臨床研修医（医科）の採用試験を7月31日、8月21日に附属病院にて実施した。平成23年度の募集定員は下記の通りである。

本院：51名（一般47・小児2・産科2）、青戸病院：6名、第三病院：25名（一般21・小児2・産科2）、柏病院：28名（一般24・小児2・産科2）。

附属4病院を合わせた定数110名全員の採用を見込み、244名のマッチング登録を行なったところ、マッチした人数は103名であった。その後、追加募集にて4名（柏病院4名）を追加内定とした。

- 3) ロンドン大学医学部を卒業し、英国の初期臨床研修を修了している日本人2名を本院の初期臨床研修医として採用（定員外採用）とすることとした。厚生労働省への申請により、日本での研修期間は大幅に短縮できる見込みである。

- 4) 平成23年度初期臨床研修医（歯科）の採用試験を8月28日に附属病院にて実施した。定数3名のところ9名のマッチング登録を行ない、定数通りの3名がマッチした。

- 5) 採用予定者の卒業試験および医師・歯科医師国家試験の結果、平成23年度初期臨床研修医は医科107名（本学卒67名、他学卒40名）、歯科3名となった。

機関別の採用数は下記の通りである。

本院 48名（定員51名）内訳：本学卒19名、他学卒29名

※定員外採用2名および歯科医師3名を含めた合計は53名である。

青戸病院 5名（定員6名）内訳：本学卒5名

第三病院 25名（定員25名）内訳：本学卒21名、他学卒4名

柏病院 27名（定員28名）内訳：本学卒22名、他学卒5名

- 6) 研修指導医講習会を平成22年8月6日（金）から7日（土）の2日間にわたり開催し、参加者全員（33名）が修了した。

なお、当講習会は、厚生労働省の開催指針に基づき開催され、修了者には厚生労働省医政局長と本学附属病院長により修了証が授与される。

- 7) 他学学生を対象とした病院説明会を下記の日程で開催し、合計84名の参加が得られた。

第1回説明会 平成22年7月3日（土）

第2回説明会 平成22年7月17日（土）

- 8) メディカル・プリンシプル社が主催する『医学生のための臨床研修指定病院合同セミナー・レジナビフェア2010 in 東京』（平成22年7月18日開催）に参加した。大学、市中病院等を含めて460施設が出展する中、本学4附属病院のブースには、5年生を中心に227名（昨年135名）の来訪者を得ることができた。

9) 平成22年度のCPCについては5月から11月にかけて計6回開催した。

開催回数	開催日	担当科	臨床診断名
第702回	5月10日(月)	泌尿器科	膀胱癌
第703回	7月5日(月)	消化器・肝臓内科	肺塞栓
第704回	7月12日(月)	腎臓・高血圧内科	Castleman病
第705回	9月6日(月)	神経内科	クリプトコッカス髄膜炎
第706回	10月4日(月)	循環器内科	心筋炎
第707回	11月8日(月)	腫瘍・血液内科	MDS、ムコール症

2. 専門修得コース（レジデント）

- 1) 平成22年4月1日より、レジデント133名〔本学初期研修修了者79名、他施設初期研修修了者54名（うち本学卒15名）〕が専門修得コースの研修を開始した。
- 2) レジデント108名、リサーチレジデント4名の合計112名が平成23年3月31日をもって専門修得コースを修了した。
- 3) 平成23年度レジデントの採用に関しては、第1回目の採用試験を平成22年9月25日(土)に行い、その後も7回の追加試験を実施した結果、144名（前年比+11名）が採用となった。採用者の内訳は次の通りである。
本学初期臨床研修修了者74名、他施設初期臨床研修修了者70名（本学卒25名）

8) 生涯学習センター

- 1) 登録者数：平成23年3月現在232名、内港区医師会31名、中央区医師会6名である。
- 2) 利用者数：平成22年度は140名である。
- 3) テレフォンサービス利用件数：平成22年は88件である。
- 4) 月例セミナーが下記のとおり開催された。
 - ① 第184回・平成22年4月10日
新型インフルエンザパンデミックの1年を振り返る 小野寺昭一（感染制御部）
 - ② 第185回・平成22年5月8日
甲状腺機能亢進症の薬物治療 東條 克能（糖尿病・代謝・内分泌内科）
 - ③ 第186回・平成22年6月12日
変形性膝関節症
一保存・手術療法の特ピックスー 丸毛 啓史（整形外科）
 - ④ 第187回・平成22年7月10日
スポーツにおける脳震盪
(なぜ防がなくてはいけないか) 谷 諭（脳神経外科）
 - ⑤ 第188回・平成22年9月11日
関節リウマチの早期診断と最新の治療 山田 昭夫（リウマチ・膠原病内科）
 - ⑥ 第189回・平成22年11月13日
アンチエイジング医療と形成外科 内田 満（形成外科）

- ⑦ 第190回・平成23年2月12日
超音波診断の最前線

宮本 幸夫（画像診断部）

5) 第31回夏季セミナー

「Common Diseaseの新しい治療戦略」が平成22年8月7日（土）午後4時より法橋建（総合診療部）の司会で行われ、参加者は76名であった。

- ① インクレチン関連薬剤による
新しい糖尿病治療の幕開け 東條 克能（糖尿病・代謝・内分泌内科）
- ② 慢性腎臓病（CKD）における降圧療法の新展開
—RAA系阻害薬、そして直接的レニン阻害薬へ—
宇都宮保典（腎臓・高血圧内科）
- ③ 女性の尿失禁・性器脱治療の新戦略 鈴木 康之（泌尿器科）
- ④ 関節リウマチの新しい治療戦略 黒坂大太郎（リウマチ・膠原病内科）
- ⑤ 最近のうつ病とその対策 忽滑谷和孝（精神神経科）
- ⑥ 懇親会（立食）